

家康公と久能山東照宮

落合偉洲 宮司が語る

徳川家康公を東照大神として祀る久能山東照宮。

平成27年(2015)、家康公が亡くなり四百年という節目の年を迎えるにあたって、七年の歳月をかけて豪華絢爛な社殿などが蘇った。

あでやかな社殿の奥には、静寂な雰囲気の中、家康公が眠る神廟がある。

戦国時代に終止符を打ち、天下泰平の世を目指した家康公。

久能山東照宮で、その人物像の一端にふれてみたい。

久能山東照宮に隠された 家康公からのメッセージ

社殿の奥には

家康公が眠る「神廟」

「遺骸は久能山に埋葬する」という家康公の遺命により、元和2年(1616)に亡

くなると直ちに久能山東照宮に埋葬されました。家康公の遺骸が埋葬された場所に立つ神廟は、遺命に従い西向きに建てられています。

翌年に御靈は分霊され、日光東照宮にも祀られました。日本

中に東照宮というのは数多くあります

が、家康公を最初に祀った原点ともいいくべき場所が久能山東照宮なのです。

平和への思いを託す

拝殿の正面 上部(幕股)には、三つの彫刻が施されており、中央が有名な『司馬温公の瓶割り』の図です。司馬温公が子どもの頃、水瓶に落ちた友達を助けるために大切な水瓶

を割つて救い出します。その話を聞いた父親は水瓶を失ったことより友達の命を救つたことを褒めたという逸話を題材にしたもので、『生命の尊さ』が込められていますが、家康公の最も大切なメッセージと言えますね。国民一人ひとりの命を大切にして平和な国を築くという考えを表しています。

社殿の周囲を囲む透屏の腰に多く彫られた動物と果実、

鳥と花や穀物などの彫刻は、実り豊かで平和なイメージにつながっています。

教育の大切さを刻む

戦に勝つても人々が欲望のままに動いては世の中が乱れることを学び、教育の必要性を重んじたという家康公です

が、それは右側の『三賢人』の彫刻に語られています。実際に『群書治要』という、大名のために政治倫理の手本になる書物の刊行を命じています。同時に書物を刷るために金属活字を作らせています。

左側の『瓢箪から駒』は、"あら不得ない事が起る"現代風にいえば"想定外"ということから、常に実直に謙虚にという教えですね。

洋時計に見る外交政策

久能山東照宮には家康公をはじめ、徳川家ゆかりの品々も多く残されています。その一つがスペイン国王より家康公へ寄贈された『洋時計』です。日本最古の西洋時計であるのももちろんのこと、世界的に見ても当時の部品が残る唯一の時計です。家康公の手元に五年ほど保管され、その後に二代

将軍秀忠公が久能山へ持ってきて使われることなく保管されたため、部品が交換されなかつたのが幸いでした。

家康公は海外の国々と友好的な関係を築き、戦いを避け



④【洋時計】(国指定重要文化財)



25

三つの彫刻と洋時計

①【司馬温公の瓶割り】



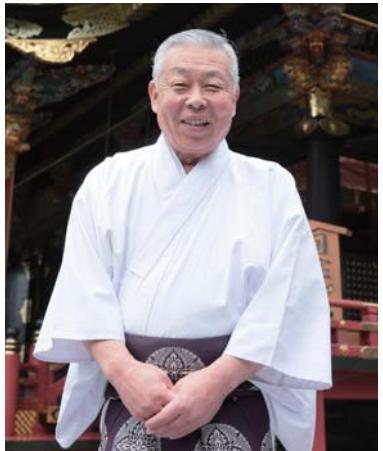
②【三賢人と瓢箪の水】



③【瓢箪から駒】



④【洋時計】(国指定重要文化財)



24



家康公が眠る神廟

あります。実際には、『群書治要』という、大名のために政治倫理の手本になる書物の刊行を命じています。同時に書物を刷るために金属活字を作らせています。

左側の『瓢箪から駒』は、"あら不得ない事が起る"現代風にいえば"想定外"ということから、常に実直に謙虚にという教えですね。

武器を平和利用に変えた

家康公の時代、戦は銃が主でしたが、鉄砲や火薬の製造を規制したのも平和な国づくりの一環です。駿府城では、家康公が花火を楽しんだという話が伝わっています

が、火薬を兵器ではなく平和なものへと転換でしょう。久能山東照宮にも火縄銃が残されていますが、それはむしろ「平和」の象徴でもあると思います。

ドン・ロドリゴを乗せた船が、メキシコに帰国する途中で難破し日本に漂着。大御所家康公は三浦按針ことウリアム・アダムズが造船した120トンの洋式船を提供し、翌年にドン・ロドリゴほか救助された乗組員を外交交渉をするための日本人とともにメキシコまで送り届けた。